

2020 年度第 10 回価格審査会の開催について

2020 年度第 10 回価格審査会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

この価格審査会は、外部の有識者によって、当財団が発刊・公開する定期刊行物等の掲載価格について、その客観性、妥当性の審査を行うものです。

開催日時	2021 年 1 月 14 日(木) ~15 日 (金)	
場 所	新型コロナウイルスへの感染防止策が引き続き必要とされていることから、上記期間中のメール会議とした	
委 員	田中 弘	日本工営株式会社 技術本部 専門顧問 技師長
	江川 浩	東日本建設業保証株式会社 業務部 副部長
	鈴木 孝之	東日本旅客鉄道株式会社 東京工事事務所 工事予算計画室 室長
	辻 保人	一般財団法人日本建設情報総合センター システム事業部門 コリンズ・テクリスセンター長
	柳 泰彦	株式会社日本設計 コスト設計部長
当 会	共通資材調査部	部長：大谷 忠広、次長：康広 誠己
	建築調査部	部長：足利 全教、次長：渡辺 弘一
	監査審査室	室長：後藤 裕
	調査統括部(事務局)	部長：神田 尚昭、課長：菊池 信博

2020 年度第 9 価格審査会議事録(案) 確認

2020 年度第 10 回価格審査会審議資料説明

審議資料の説明	
1. 「建設物価」2月号、「Web 建設物価」2月号の価格動向	
・価格が上伸した資材（工事費）	
【Web 建設物価】	
月積み契約分鉄鋼販売価格 形鋼（全国）、異形棒鋼及びねじ節鉄筋(全都市)、一般構造用丸鋼(全都市)、H形鋼（全都市）、等辺山形鋼（全都市）、鋼板（全都市）、市中切板（名古屋、大阪、広島、高松、福岡）、伸銅品(全都市)、レディーミクストコンクリート（鶴岡B、水戸、日立、銚田、大子、那須塩原、姫路、加古川、赤穂、神河、宜野湾）、コンクリート用骨材(長野A、飯山、木曾、高山)、道路用砕石（長野A、飯山、木曾）、コンクリート型枠用合板(富山、金沢、岐阜、静岡、名古屋、津、那覇)、ストレートアスファルト（沖繩除く各都市）、IV電線(全地区)、配管用炭素鋼鋼管（北海道の各都市）、配管用ステンレス鋼鋼管（全都市）、燃料油（全都市）、鉄スクラップ(全都市)、銅スクラップ(全都市)など	
・価格が下落した資材（工事費）	
【Web 建設物価】	
道路用コンクリート製品（さいたま）、一般配管用ステンレス鋼管継手（全都市）、鉛スクラップ（名古屋）など	

2. 比較資料		
・ 企業物価指数、モニター調査結果、業界紙との比較結果について説明。		
審議事項	委員の意見、質問	建設物価調査会説明・回答
質問 1	電線は、約 10 カ月の間、長期的に続伸中で、その主因は原材料(銅)の高騰とコメントされている。この銅(非鉄金属)材料の供給と価格に関わる、世界的見通し(例えば、銅は世界的に不足状態が続くなど・)はどうか。	このところの銅価格変動には、中国の景気回復期待と米国をはじめとした各国の金融緩和政策に加え、南米の一部銅鉱山で感染対策として操業停止が懸念されていることなどが影響している。今後、長期的には、電気自動車の普及拡大やクリーンエネルギー向けなどでの需要増が予想されているが、短期的には世界的な投機対象となっていることなどから価格の見通しは難しい状況にある。
質問 2	通信ケーブル用保護管は、メーカーの値上げが浸透したという理由で、全国(北海道・沖縄除く)レベルで上伸した(最大変動率 18.4%)。この製品は、いわゆる塩ビ系と思うが、メーカー値上げの種たる背景は何か。通信業界という、ある意味限られた業界市場において、かなりの大手メーカーが市場をリードできるような状態なのか。	メーカーは、製造コストの上昇から値上げを実施しその一部が浸透した。通信ケーブル用保護管を製造するメーカーは限られており、他の塩ビ系配管材に比べ値上げが浸透しやすい状況にある。
質問 3	鉄スクラップ(H2)は、ここ 10 カ月ちかくの間、長期的に続伸中で、電炉鉄製品価格の上伸に影響している。国内市場および中国を含めたアジア市場とを見渡して、近々、鉄スクラップ価格が下向き理由・材料は推察できるのか。	鉄スクラップの価格は、昨年 9 月以降全国的に上伸傾向が続いている。特に、11 月中旬以降は、アジアでの粗鋼生産量の増加に伴う海外での需給ひっ迫が影響し、国内市況が上伸している。世界的に需給タイトな状況が続くとの見方が多く、目先も強含みの見通しである。
質問 4	建設物価の変動帯数は、2020 年 8 月号以降 7 か月連続で上伸帯数が上回っており、特に今月(2月)は上伸が 9 割を超える状況(77 帯)となっている。世界市況では、中国の内需拡大や米国の自動車・住宅市場の回復などにより、値上がりが見られた鉄鋼製品をトップに今後も上昇基調にあると思われるが、この動向はしばらく続くとみてよいか。	今月は、アジアでの粗鋼生産量の増加や新型コロナウイルスに対するワクチン開発の進展による経済活動再開への期待感などから、海外相場の影響を受けやすい資材を中心に上伸した。今後の新型コロナウイルスの影響など世界経済の変動要因も多く、先行きの動向は不透明である。

質問 5	埋込カラー形小口径推進管及び、遠心力鉄筋コンクリート管の最大変動率の理由として、どちらも長野地区で採算が特に低かった規格をメーカーが大幅に値上げしたとなっている。同地区は、国・県・市町村などの発注者で昨年の災害復旧関連により工事量が大幅に増えているとの情報もあるが、需給関係による価格への影響はなかったのか。	両製品とも、昨年の災害の影響による需要の増加は見られない。主な用途である下水道需要は年々減少しており、メーカーは需要減少下での設備維持費用確保などを理由に値上げした。
質問 6	鉄スクラップの価格は、海外の需給ひっ迫を受けて、東京（21,000→33,000円）、大阪（20,000→28,000円）で大幅な上昇となっている。この高値は東京、大阪でそれぞれいつ以来の水準になるのか。	直近で3万円以上だったのは、東京地区では2014年1月号の30,000円、大阪地区では2014年2月号の32,000円である。
質問 7	コンクリート型枠用合板の供給減は全国的な事情であるが、前月は関東・北陸・近畿、今月は中部・沖縄地区が上伸であった。目先、強含みの公算大とは、他のエリア（北海道・東北・四国・九州）も同じ状況下にあるということか。	供給減は全国的な状況であり、見直しについても全国的に同じ傾向にある。ただ、価格変動は都市ごとの在庫状況や需要動向によるため結果的に変動時期は異なる。
質問 8	コンデンサの最大変動率26.0%は、採算が特に低かった規格をメーカーが大幅に値上げしたとのコメントがあるが、最小変動率も24.0%と高い。全体に需給がひっ迫している等の何らかの要因があるのではないか。	コンデンサ全体で見ると、需給にひっ迫は見られず安定している。ただ、低圧進相コンデンサのみ価格競争が激しく採算が低くかったが、メーカーの大幅な値上げがここにきて浸透し、上伸につながった。
質問 9	北海道地区の配管関係資材の上伸は、輸送コスト増が背景となっているとのコメントがあるが、季節的なものか、また他の資材の輸送コストとの違いは何か。	北海道地区では、これまで輸送コストが採算に合わない状況が続いていたが、流通各社の粘り強い交渉の結果、ここにきて販売価格を見直す形で浸透した。これは、季節的要因ではなく、需要が減少するなか、他の資材に比べ製品価格の見直しが遅れていたことが背景にある。

質問 10	600V ビニル絶縁電線 (IV) の上昇理由を、原材料高騰分の製品価格への転嫁としているが、昨年 6 月から右肩上がりにより上昇し、昨年 2 月及び一昨年 5 月の水準をも超えている。需要が低迷する中、先月の見通し (横這いで推移) と違った理由は何か。また、過去の価格推移をみると、既に未転嫁分を反映していると思われるが、今回の見通しも横ばいとする理由は何か。	原材料である銅の価格が上昇を続け想定を超えてしまったため、先月の見通しと異なる結果となってしまった。銅の価格が過去 10 年間の最高値圏で推移を続けているなか、未転嫁の部分も残されているが、需要低迷が続いており横ばいでの推移と見ている。
質問 11	コンクリート混和剤 (材) 一ブランド品一で、メーカーによる大幅な値上げ、値下げが混在する理由は何か。	大幅に上伸した背景は、製造コスト上昇分を長期間販価に転嫁していなかった製品をメーカーが値上げしたためである。下落の背景は、シェア拡大を目指すメーカーが値下げしたためである。
質問 12	ゴンドラ 一ブランド品一のメーカーによる大幅な値上げの理由は何か。	巻き上げ機等の仕様変更と製造コストの上昇である。
質問 13	道路標識板、保安用品、労働保安用品のメーカーによる大幅な値上げの理由は何か。	働き方改革に伴う人件費上昇など製造コスト増が主な値上げの理由である。
審議結果	「建設物価」2月号、「Web 建設物価」2月号の価格動向に問題はなかった。	

以上